

サッカーの歴史—イギリスで起きたフットボールからサッカーへの変化の経緯—

History of soccer-Process of change from football to soccer in Britain-

1K03B140-9

氏名 長沼圭一

指導教員 主査 中村好男 先生 副査 堀野博幸 先生

<緒言>

2006年現在、日本のFIFA ランキングは、207か国中、47位と世界でも強豪国に引けをとらない位置にいる。また、2002年の日本と大韓民国の共同開催ワールドカップでは、決勝トーナメントベスト16という優秀な成績を残した。その約10年前の1993年に日本では初のサッカーのプロ組織である、Jリーグが発足した。これがきっかけとなり、ここ15年あまりでサッカーは急激に日本に普及し始めた。しかし、未だにサッカーが日本の文化として根付いているとは言いがたい。その要因としては、サッカーの強豪国と言われる国とのサッカーに関する歴史や文化の違いが大きいのではないだろうかと考えられる。日本国民が、このようなヨーロッパの国々のようにサッカーの文化を築いていこうとするときに、サッカーの母国と呼ばれるイギリスにおける、歴史的背景を基にどのようにサッカーが生まれ、そして発展していったかを知ることにより、今後のサッカー界がどのように発展していくのかを考察していきたい。

<目的>

本研究の目的は、サッカーがイギリスにおいてどのようにして生まれ、発展していったのかを明らかにすることである。具体的には、以下の3点について考察を進めた。

- ① フットボールというスポーツがイギリスにおいて、どのようにして生まれたものなのか。
- ② どのような国民性を持ってフットボールが国に普及していったのか。
- ③ そして、どのようにサッカーという競技になっていったのか。

<第1章>

イングランドは9世紀から11世紀にかけて北欧のデーン人に侵略されていた。そのデーン人を殺し、頭を切り取り、ボール代わりにして遊んでいたのが、イングランドのフットボールの始まりだとされている。14世紀初期のころは、粗暴性の強いマス・フットボールが親しまれた。しかし、18・19世紀に産業革命などの影響で、様々な形へと変化していったマス・フットボールは、衰退していった。

<第2章>

18・19世紀のころ、マス・フットボールが衰退して

いく中で、町で行われていたフットボールがパブリック・スクールの教育によって大きく発展を遂げた。生徒により、ルールが成文化されたり、ゴール間の距離が縮まるなど、競技をコントロールするという行為が生まれ、「athleticism」の流れが強まっていった。

<第3章>

パブリック・スクールで発展したフットボールが、多くの地域へと知られていったのは、卒業生たちが、大学生、社会人になってもフットボールを引き続き楽しみたいという思いから広まっていった。そして、各地にフットボールクラブが誕生し、フットボール・アソシエーション (FA) が生まれることとなる。

<まとめ>

フットボールの起源としては、不明確ではあるものの、14世紀初期のころは、フットボールが民衆に粗暴性の強いマス・フットボールとして親しまれ、その粗暴性に対する禁止令や社会情勢の変化により、徐々にフットボールの規模は小さくなっていった。また、18世紀ごろからパブリック・スクールの教育の一環として取り入れられ、フットボールを、サッカーへと発展させていく。さらに、パブリック・スクールの卒業生が大学生や社会人となっても尚、フットボールを楽しもうとする動きが一層フットボールを発展させることとなる。そして、イギリスにおいて発展した「ケンブリッジ・ルール」（後にサッカーと呼ばれる）は、ヨーロッパをはじめとして世界各地へと広がっていく。また、オランダをはじめとしてヨーロッパの国々を中心に設立されたFIFAが大きく発展していき、現在のサッカー界の中核となっていることはいうまでもない。そして、サッカーは新たな発展を見せようとしている。サッカーをより小規模化させ、サッカーの要素を取り入れながらも、新たなスポーツとして成り立ちつつあるフットサルや、サッカーの個人技術でもある、リフティングが競技として成り立ちつつあるフリースタイルがある。このような変化もまた国や文化の変化やそれに伴う空間への価値観の変化が大きく関わってくるのではないだろうか。